

翻訳家 柴田元幸

小説家 川上弘美

小説家 古川日出男

音楽家 大友良英

小説家 沢村鉄

しばたもとゆき / 1954年東京生まれ。翻訳家。ポール・オースター、トマス・ピンチオンら、現代アメリカ文学の多様な才能をつぎつぎと日本語で紹介。講談社エッセイ賞、サントリー学芸賞、日本翻訳文化賞を受賞。また、日本の文芸誌『Monkey』とアメリカの文芸誌『Monkey Business』の双方で責任編集を務めている。



かわかみひろみ / 1958年東京生まれ。小説家。96年に『蛇を踏む』で芥川賞、99年には『神様』でドゥマゴ文学賞と紫式部文学賞をダブル受賞。他に伊藤整文学賞、女流文学賞、谷崎潤一郎賞、芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞している。最新刊は全21話収録のバラエティ豊かな短編集『猫を拾いに』。俳人としても活躍している。



○ふたつめの土地に転がる学校

本年度、「言葉でできること」をテーマに掲げた『ただようまなびや』は、初めての分校を岩手県の紫波町に開きます。土地が変わるとき、この学校のなにが変わるのでしょうか。たとえば岩手県は宮沢賢治という文学者を生んでいますが、この人物は「虹が火事に見えた」という意味のことを短い詩のなかに記しました。もちろん、大空にかかった虹が誰の目にも火事のように見えるわけではありません。また、賢治さんも実際にそれを火事だと見間違ったわけではないかもしれません。しかし、そのように言葉で記された瞬間から、あらゆる岩手県の虹がなんだか火事のように見え出すのも事実です。その先にあるのは、世界中の虹がいろいろと異なったものに見間違えられる局面です。『ただようまなびや』はただよい続けることで、ひとつの場所と別の場所をつなげたいと思います。ただよい続けることで、孤立してしまいがちな「かすかな声」や「小さな言葉」に、七色には届かないまでも二色や三色の光をあたためたいと思います。この学校はどこにありうと、あなたの暮らす土地と地続きなのです。

古川日出男

The Drifting Classroom: The Art of Writing, Reading and Translating

# ただようまなびや 文学の学校

岩手分校 2014 受講生募集

<http://www.tadayoumanabiya.com>

【お申し込みは公式サイトにて受付中】※高校生以上に限る

おおともよしひで / 1959年横浜生まれ。音楽家。即興演奏やノイズ的な作品からポップスに至るまで多種多様な音楽をつくり続け、その活動範囲は世界中におよぶ。2012年、プロジェクトFUKUSHIMA!の活動で芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞、2013年「あまちゃん」の音楽他多岐にわたる活動で東京ドラマアウォード特別賞、レコード大賞作曲賞他多数の賞を受賞。  
<http://www.otomoyoshihide.com>



ふるかわひでお / 1966年福島生まれ。小説家、ただようまなびや学校長。東北六県700年間の歴史を描き出した大著『聖家族』や、東日本大震災直後の福島での旅を綴った『馬たちよ、それでも光は無垢で』などで生地に触れる。『ベルカ、吠えないのか?』、創作論『小説のデーモンたち』、戯曲『冬眠する熊に添い寝してごらん』等著書多数。

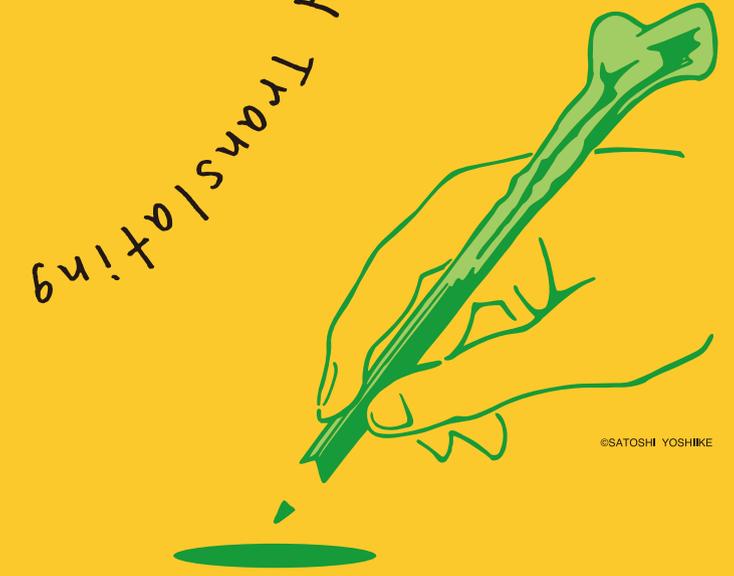
さわむらてつ / 1970年岩手県釜石市生まれ。小説家。2000年、地方都市の学校を舞台としたミステリー小説『雨の鎮魂歌(レクイエム)』(幻冬舎)でデビューする。警視庁墨田署刑事課特命担当・一柳美結シリーズなど著書多数。最新刊は一柳美結シリーズの完結編『シユラ』。  
<http://www.t-sawamura.net>



紫波町図書館開館2周年記念事業

10/25sat・26sun

会場：紫波町図書館（オガールプラザ中央棟 情報交流館内）



©SATOSHI YOSHIKE

受講料 無料